



〇「舞い上がれ！」(卒業式式辞抜粋)

3月には弥生という和風月名があります。草木がだんだんと芽吹く月という意味です。12月の師走と3月弥生には、10月神有月のように月がつきません。新たな一年や始まり、そして未来を意識する月だからでしょうか。3月は夢見月とも言います。本来の意味は違いますが、夢をしっかり見据え、志を大きく、**自立した大人**として、未来に向かってしっかり芽吹いて欲しい。卒業式のある3月にいつも強く感じる思いです。



ただ今、卒業証書を授与した卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。みなさんは本校所定の全課程を修了しました。過去の高校生が経験したことがないような環境の中での3年間だったこともあり、業を終えた達成感のもとより、大きく成長した自分を感じているのではないのでしょうか。また、休校やマスク着用ではじまった高校生活で、ともすれば仲間との「**心の壁**」を感じることもあったと思いますが、それを乗り越え深まった**絆**の強さを今は感じているのではないのでしょうか。保護者のみなさまも、新型コロナ禍の中で高校生活を過ごすお子様に、時には何もしてあげられない葛藤を感じながらの日々だったと思います。しかし、今日のお子様の凛とした姿を見て、「大事に育ててきてよかったなあ」、「よく成長したなあ」、「よくがんばったなあ」という感慨や安堵感に満たされていることと思います。あらためてましては、お子様のご卒業おめでとうございます。卒業生、保護者のみなさまが、苦難と努力の日々を重ね、そして乗り越えて、今日の日を迎えられたことに敬意を表し、教職員一同心より拍手を送りたいと思います。

在校生は、先輩と過ごした思い出を胸に、先輩の姿に自分の将来の姿を重ね合わせ、憧れを抱きながら祝福していることと思います。教職員も卒業生の成長した姿をみて「学校で働けて本当によかったなあ」と喜びを噛みしめています。

いろんな思いを重ね合わせる今日の佳き日、卒業生の成長によりもたらされた互いの喜びを分かち合うという卒業式の意義の一つを、参列者一同今年より深く感じていると思います。

今日のように、この瞬間のように、人は自分の存在や成長が誰かの喜びとなり、誰かを支えることに結びついたとき、幸せを感じることができます。生きがいを手にすることができます。これからの人生、そういう自分を積み重ねていってください。「私が私であってよかったなあ」「この仕事についてよかったなあ」「がんばってよかったなあ」と思える瞬間を心にたくさん刻めるよう**小さな挑戦・小さな気遣い**を積み重ね、しっかり芽吹いてください。

「向かい風をつかめ！」。昨年度の贈る言葉です。今年度のNHKの朝ドラは「舞いあがれ！」です。向かい風を受けてこそ大きく飛べると信じ、何事にもあきらめずがんばるヒロインの姿を通して、明るい未来への希望を届けるドラマです。飛行機も凧も逆風を利用します。向かい風により大きく舞い上がります。**大きな志**をもって未来に向かっていく卒業生のみなさんに、同じ言葉をはなむけの言葉とします。

ミニコラム 「心の壁」

先日、災害時外国人サポートボランティアの研修に参加しました。災害時、日本語のわからない外国の方は、避難所での日本人との習慣の違い(壁)、言葉の違い(壁)からくる情報収集の壁、国籍・在留資格などに起因する援助・補助の壁など、さまざまな壁を感じると知りました。しかし、お互いを理解することで乗り越えることができる壁も多くあります。だから、一番高く乗り越えないといけない壁が心の壁だと知りました。心の壁は言葉がわかれば乗り越えられるものでもありません。まずはお互いを知ろうとするかどうかだと研修を通して思いました。